

石井専門委員提出意見

クエン酸三エチルがヒトの体内でどのような動態を取るかということに関しては、資料がないため評価することができません。

ラットにおける体内動態の研究から、体内に吸収されたクエン酸三エチルは大部分がクエン酸二エチル及びクエン酸一エチルに代謝されて尿中に排泄されるとされていますが、ヒトにおいては全く不明です。

ラット及びヒトの血清及び肝臓ホモジネートを用いた *in vitro* の実験結果から、ラットにおける場合よりも、ヒトにおける場合のほうがクエン酸三エチルの代謝は遅い可能性が考えられますが、もしそうだとすると、ヒトの体内でクエン酸が生成したとしても、その量は非常に少ないと推測されます。

このような状況を踏まえますと、クエン酸三エチルの毒性評価の一環としてクエン酸の毒性を評価することには、あまり大きな意味はないように思われます。